



社長の塩見和之さんは、福岡山商工会議所の会頭も務めている。「北近畿全体を活性化させることが第一と考えています」



食材の専門知識や調理方法に関する独自のセミナーも開催

しかし、当時は競合の卸売業者が市場を押さえており苦戦する。活路を見出すために、ドライブインやビジネスホテルなども始めたが、素人商売ということもあり、うまくはいかなかった。

「私は大学卒業後、仕入先で勉強させてもらい、昭和60（1985）年に会社に入りました。子どものころから親が頑張つて店をやっているのを見ていましたから、将来は「自分が継がなあかんか」と思っていました。会社は食品卸売に事業を集約しましたが、社内は高齢

化が進んでいて新しいことに前向きではなかったため、私は一人の同期入社社員と一緒に、毎日朝から晩まで新たな得意先づくりにかけ回っていました」と塩見さんは昔の苦労を振り返る。

その後、中食・外食産業が発展し、それに伴い中庄本店も業務用食品の販売に切り替えた。それが功を奏し、業績は伸びていった。

「あるスーパーが総菜販売を始めるためにセントラルキッチンをつくるという話を聞いて飛び込みで行った。冷凍食品なら買ってくれるというので、それまでやっていなかった冷凍食品も扱うようになりました。それが今では、冷凍食品が売り上げの半分を占めるほどになっています。また、外食や給食にも売り込んでいきました。生活スタイルの多様化による『食』の

業務用食品の販売に転換

ります。私が子どものころで、それまで大阪の豊中市の団地に住んでいたのですが、両親、妹と一緒に福知山に引っ越してきました」



京都府北部を流れる由良川沿いにある中庄本店の社屋



取り扱うのは常温品、冷蔵・冷凍品、専用品から非食品まで



醸造していたしょうゆのラベル



「ZuT」は気温35度でも1時間溶けずに形状を保つ



かつての本店



水あめは舞鶴で製造していた

百年経営に極意あり!

長寿
企業の
秘密

中庄本店

時代が求めているものを常に探し続け
新事業も「おもしろ愉快に」取り組む

廃業の瀬戸際から復活

京都府北部に位置する城下町で、江戸時代から北近畿の要衝として栄えた福知山市。中庄本店は、この地で業務用食品の卸売業を営んでいる。その起源は江戸時代の寛政年間（1789～1801年）に、中という村の出身の初代塩見庄兵衛が開いた中村屋庄兵衛商店である。当初は製菓業を営んでいたが、原料である砂糖や小麦粉などの販売を始めると、その後は肥料や石油の販売、農場経営、しょうゆの醸造、水あめの製造、水力発電（現在関西電力により稼働中）と、事業を広げていった。

「五代目庄兵衛が明治元年に店名を中庄本店に改称し、その年を会社の創業年としています。このころが全盛期だったのですが、六代

外部化の流れにうまく乗ることができました」

ファブレスで自社製品を販売

事業が発展してくると、塩見さんが次に取り組んだのが、わくわくドキドキする事業に前向きな会社にしていくことだった。

「いつもお客さま指向で、おもしろ愉快に」仕事をすれば、自ずとお客さまのニーズを捉えられる会社になると思うからです。私たちのような中小企業は、大企業に比べて何でもでき、思いを形にしやすい。それを生かした取り組みをしています」

その一つが昨年2月に発売した「溶けにくいアイスクリームZuT（ずつと）」で、ゆっくり食べてもアイスクリームの口溶けを楽しめるようになった。これは、得意先の老人介護施設から、食べるのが遅いご老人にもアイスクリームを食べてもらいたいという要望があり開発した。自社に工場はないので、他社に製造を依頼している。

「2025年には団塊世代が後期高齢者になるので、高齢者向けの食品が今後ますます必要になってくる。そういうところで、私たち

目庄兵衛が今の商工会議所の前身である福知山実業協会の会長をしていた大正9（1920）年に46歳で急逝し、その後継ぎの七代目も31歳で急逝するという不運が続いて、徐々に事業を縮小せざるを得なくなりました」と、九代目の塩見和之さんは言う。

七代目には男の後継ぎがおらず、その後は残った従業員たちで本業の食品卸売業を続けていったが、事業はうまくいかず、昭和38（1963）年に廃業するかどうかの瀬戸際に立たされた。

「当時、七代目の長女が結婚して大阪で暮らしていて、その夫が八代目を継いで中庄本店を続けることになり、勤めていた会社を辞めて福知山に戻ってきました。直系ではなかったのですが、直系ではないので、それが私の父にな

がどう貢献していくかを考えているところです。ZuTで自社に工場がなくてもファブレスメーカーとして製品を開発していきけることが分かったので、同様の方法で新たな製品を企画しています。あとは、北近畿は面積は広いですが人口が少ないので、大きな市場がある京阪神に商圏を広げていきたいと思っています」

中庄本店は時代の変化に対応するために、事業を徐々に変化させて生き残り、発展してきた。今後もその流れは変わることなく、経営理念である「人びとに喜ばれる企業になる」べく新たな道を探し続けていく。

中庄本店の強さの秘密

- 一、良き人材と「人びとに喜ばれる企業になる」という経営理念
- 二、仕事は「おもしろ愉快に」を心掛けてきた
- 三、変化への対応力

プロフィール

社名 株式会社中庄本店（なかしょうほんてん）
所在地 京都府福知山市荒河東町176
電話 0773-22-3135
代表者 塩見和之 代表取締役社長
創業 寛政年間（1789～1801年）
従業員 約80人
【福知山商工会議所】



HPはこちら